

備えは今から

彼岸とは、仏さまの住む世界のことを申します。つまり場所を示す言葉です。浄土宗では、阿弥陀仏の極楽浄土のことを指します。極楽浄土にゆく方法の一つです。阿弥陀仏の力を信じて、「南無阿弥陀仏」と念仏を称えると、必ず迎えに来ていただけます。春秋の彼岸は、日々念仏を称えるために「お救いを再確認する」期間です。

日々の念仏といえは、常に死を意識して称える念仏を、念ずる死と書いて「念死念仏^{ねんしねんぶつ}」と申します。死期が分かれば準備もできそうですが思い通りにはいきません。事故、災害、急病、どのような最期を迎えるかは誰にも分からないのです。いつ迎えるともしれない自身の死を常に意識して念仏に励む必要があります。

ある和尚が商売人に

「毎日念仏を称えなさい」と勧めました。「仕事が忙しくてそれどころではありません。死ぬ前に称えます」と返します。

「いつ死ぬのか分かっていのか」と尋ねると、「分かりません。困りました」と応えました。

「分からないから日々称えるのだ」と言うと、その日から商売人は毎日欠かさず称えたそうです。

阿弥陀仏はすべての人を救うために、すべての人がつとめられる修行を用意してくださいました。南無は助けてくださいという意味です。南無阿弥陀仏と名を呼べば必ず救っていただけます。転んでから杖を買いに行けないように、命つきてから念仏を称えることはできません。備えは今からです。共に念死念仏を心がけましょう。

合掌